



ありがとう  
ございました。

◎佐々木 久恵

国労東日本本部 女性部長



平成元年、第3次の広域採用で北海道からはるばる上京しました。まさか自分が東京に住むなんて、その時は夢にも思っていませんでした。

今や東京の人のような顔をしています。昭和56年に北旭川駅という貨物駅に入りました。親から、鉄道は女でもいい給料もらえる、定年まで働いている人もたくさんいる、年金もある、いいところだ、そうすすめられて入ったのに、すぐに合理化、合理化で、仕事もろくに与えられず、現在員運用その他1という何だか訳のわからない定員外でした。ちゃんと試験を受けて入ったのに、私って何？です。挙句の果てに人材活用センターからのJR不採用、首切りです。

採用したくせに仕事もさせないまま、いらなくなっただけで放り出すなんて、なんて無責任な、人を何だと思っているんだ、腹がたって仕方ありませんでした。それで、私を雇った責任を最後までとらせてやる、そのために上京しました。

東京でも要員機動センター、直営店、電話案内、改札、遺失をやってきました。国労としての差別はあり、たくさん処分は頂いたものの、仕事をしているという実感はありました。

途中、結婚、出産しました。それからは保育園の送り迎え、夫との勤務調整やらとあわただしく、考える間もなく時間がたち、その子供

も就職、独立し、やれやれと思った10年前、脳梗塞を発症し、しばらく休むことになりました。目にも網膜剥離が見つかり、手術しました。仕事も、もうここまでかとも思いましたが、もう一度よく考え、何のために私ここにいるの？最後まで責任とらせる、定年まで働く、でないと私の国鉄闘争は終わらない、終われないんだ、北海道から来た意味がない、そう思いました。

リハビリに励み、何とか復職しました。体は大体戻ったものの、視力は戻らず、しかも左右に差があり、遠近感がわからず、段差を踏み外したり、つまずいたりによく転ぶようになりました。夜の外出もNGで文字もよく見えず、エルダーはあきらめざるをえませんでした。悔しいのですが仕方ないですね。

私の闘いもそろそろゴールが見えてきました。よくここまで来たものだと思います。思ったように、信じたようにやってきました。満足しています。これからは外からはなりますが、ずっと国労の応援団です。国労がんばれ、青年がんばれ、女性もがんばれ、です。今まで支えてくれた全ての仲間に「今まで本当にありがとうございました」その一言です。

どこかでひょっこり現れるかもしれませんよ。その時はどうぞ気軽にお声かけ下さいませ。よろしくです。信じれば必ず道は開ける、そうですよね？では皆さまお元気で。